

国民医療を守るための総決起大会へ参加

日本医師会をはじめとする三師会からなる、43の医療団体から成る国民医療推進協議会は11月20日、「国民医療を守るための総決起大会」を開催し、医療・介護の崩壊回避に向けて、2025年度補正予算での対応、2026年度診療報酬改定での対応、「真水」での思い切った緊急的な対策という3項目を求める「決議」を採択した。総決起大会初の試みとして、現地参加の東京都医師会以外の46道府県医師会のサテライト会場とオンラインで結んで開催、約1万人が参加した。自民党を中心に、日本維新の会など党派を問わず、約40人の国会議員が出席した。当連盟および日臨技からも計13名が出席し賛同した。

決議(案)

医療・介護は公定価格で運営されているが、物価・賃金の急激な上昇に診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の改定が追いついておらず、医科歯科医療機関、薬局、訪問看護ステーションや介護事業所等は、著しく経営状況が逼迫しており、閉院や倒産が相次いでいる。

令和7年度最低賃金はプラス6%強、人事院勧告はプラス3.62%、また「骨太の方針2025」でも示された2025年春季労使交渉の平均賃上げ率は5.26%等となっているが、医科歯科医療機関、薬局、訪問看護ステーションや介護事業所等は、とてもこれらに対応できるような状態ではない。

適正化等の名目により、医療・介護の財源を削って財源を捻出するという方法でこれ以上削減されれば、地域の医療・介護の崩壊は避けられない。

よって、国民、患者、利用者の健康を守り、さらには国民皆保険を堅持するため、以下の対応を求める。

1. 令和7年度補正予算での対応

医科歯科医療機関、薬局、訪問看護ステーションや介護事業所等に対し、補助金と診療報酬・介護報酬等報酬の両面からの早急な対応を行うこと。

2. 令和8年度予算編成での対応

令和8年度診療報酬改定をはじめ、令和8年度予算編成において、賃金上昇と物価高騰、高齢化、医療の技術革新に対応した大幅なプラスとすること。

3. 財源を純粋に上乘せするいわゆる「真水」による大規模で抜本的な対応

これまで適正化という名の下で社会保障費は削られ続けてきたが、あくまで財源を純粋に上乘せするいわゆる「真水」による思い切った緊急的な対策を行うこと。

以上、決議する。

令和7年11月20日

国民医療を守るための総決起大会

国民医療推進協議会とは？

国民医療推進協議会は平成16年10月、「国民の健康の増進と福祉の向上を図るため、医療・介護・保健および福祉行政の拡充強化をめざし、積極的に諸活動を推進すること」を目的に、日本医師会が各医療関係者団体等に呼びかけ、発足した。これまでの活動としては、国民皆保険制度を守るための活動や禁煙推進運動などを行ってきた。

●参加団体一覧(五十音順)

	団体名	団体名
1	健康・体力づくり事業財団	23 日本健康運動指導士会
2	全国公私病院連盟	24 日本作業療法士協会
3	全国自治体病院協議会	25 日本歯科医師会
4	全国腎臓病協議会	26 日本歯科衛生士会
5	全国病院理学療法協会	27 日本歯科技工士会
6	全国訪問看護事業協会	28 日本視能訓練士協会
7	全国有床診療所協議会	29 日本柔道整復師会
8	全国老人福祉施設協議会	30 日本鍼灸師会
9	全国老人保健施設協会	31 日本診療放射線技師会
10	全日本鍼灸マッサージ師会	32 日本精神科病院協会
11	全日本病院協会	33 日本精神保健福祉士協会
12	日本医療経営コンサルタント協会	34 日本病院会
13	日本医師会	35 日本病院薬剤師会
14	日本医療ソーシャルワーカー協会	36 日本訪問看護財団
15	日本医療法人協会	37 日本慢性期医療協会
16	日本医療保険事務協会	38 日本薬剤師会
17	日本ウオーキング協会	39 日本理学療法士協会
18	日本栄養士会	40 日本リハビリテーション病院・施設協会
19	日本介護福祉士会	41 日本臨床衛生検査技師会
20	日本学校保健会	42 日本臨床工学技士会
21	日本看護協会	43 認知症の人と家族の会
22	日本救急救命士協会	

●主な役員

会長：日本医師会会長
副会長：日本歯科医師会会長
日本薬剤師会会長
日本看護協会会長



日臨技支部学会における連盟ブース活動報告

中部圏支部学会

第63回日臨技中部圏支部学会での連盟ブース活動

11月1日・2日の日臨技中部圏支部学会in三重にて連盟ブース活動を行いました。連盟ブースは今年も学会企画のスタンプラリーの対象となったため、多数の参加者に足を運んでいただきました。しかし、待っているだけではダメなので、ブースの前に立って、行き交う参加者を捕まえてはシールを貼り配布物を渡すという行動に出ました。最初はなかなか声掛けが出来ずにいましたが、ここはひとつ、「コミュニケーションスキル向上の必要性（本学会でも盛んに取り上げられていた）」を自らに言い聞かせて、また、愛知県の小木曾支部長の積極的な対応にも触発されて、奮起いたしました。適宜交代しながらも中部圏の6支部長全員で務めた結果、多くの日臨技会員に連盟入会をアピールできました。

ご協力いただいた各支部長は以下の通りです。

本学会の担当県（三重県）の広瀬逸子氏、愛知県の小木曾美紀氏、静岡県の石井浩崇



氏、富山県の澤井真史氏（写真左）、岐阜県の棚村一彦氏（写真中央）、石川県の田

中佳（写真右）であり、各氏のご尽力にあらためて感謝いたします。

中部圏支部ブロック長 田中佳

九州支部学会

日臨技九州支部学会での連盟ブース活動

日臨技九州支部学会を10月18・19日に長崎県大村市で開催いたしました。九州8県から会員が約700名参加した学会で情報交換会では「変面ショー」が催されました。展示会場の一画に連盟ブースを設けてもらい学会企画のスタンプラリーの最終ポイントとなり多数の会員に足を運んでいただきました。ブースにおいては連盟入会のお願いと連盟活動を少しでも分かっていたくためにスタンプを押しながら丁寧な説明を心がけより多くの会員に連盟の存在をアピールできたのではないかと考えています。若い技師の中には連盟活動に質問する方も散見され連盟入会率の向上につながるものと期待しています。

九州支部ブロック長 平田哲也

中四国支部学会

11月28日、29日高知県で開催された、令和7年度 日本臨床衛生検査技師会 中四国支部医学検査学会（第58回）にて、日本臨床検査技師連盟のブースを設置し、活動のPRを行った。

設置場所はエレベーターを出てすぐだったので、用意していた300部のパンフレット（青年部PR）と高知県臨床検査技師会の用意してくださった、「ハシビロコウの葉」配布を完了できました。しかし、PRビデオやポスターを立ち止まってまで観る人は少なかったです。神戸青年部長に用意してくださった、キラキラシール高知版は好評でした。



中四国支部ブロック長 青戸正樹

日本臨床検査技師連盟

1年目の会費が無料^(注) となります!

日本臨床検査技師連盟では、新規入会時の会費お支払い方法として「口座振替」をご選択いただいた方につきまして、入会年の会費が無料^(注)となります。ぜひこの機会をお見逃しなく！お申し込みは、以下の二次元バーコードからお願いいたします。



(注) ◆無料となる期間例◆

例1 令和7年10月手続き、10.11.12月は無料、翌年令和8年2月に会費口座引落となります。

例2 翌年令和8年1月～12月に申請した方は翌々年令和9年2月に会費口座引落となります。